

令和4年12月5日(月)

13:30~15:05

令和4年度 第2回佐賀県立鹿島高等学校学校運営協議会
議事録

場 所：鹿島高等学校大手門学舎 LL 教室

参加者：＜委員 10 名＞（欠席 2 名）

＜佐賀県 2 名＞教育振興課指導主事、高校魅力化アドバイザー

＜事務局 4 名＞赤門学舎副校長、大手門学舎副校長、統括事務長、主幹教諭

【第 1 部のみ】＜主任 7 名＞

教務主任（兼普通科主任）・企画研修部主任・1 年学年主任・2 年学年主任・
3 年学年主任・商業科主任・食品調理科主任

【第 2 部のみ】＜生徒 12 名＞1・2 年各クラス代表生徒

＜会 順＞

○ 開会 大手門学舎副校長（13:30～）

○ 会長挨拶

→ 今年度からコミュニティスクールが始まった。学校運営協議会なので「協議」することを大事にして欲しい。実質的な話し合いに重きを置くために、「報告事項」は簡潔に。第 2 部の生徒の参加は、大変期待している。

【第 1 部】

1. 報告・質疑応答

(1) 学校評価中間報告について 赤門学舎副校長

→ ・授業の充実と確かな学力の育成について

概ね達成しているが一部達成できていないので中間評価は B

・社会に貢献する志を持つ生徒の育成（進路指導の充実と生徒の進路保障）

平均偏差値 50 以上を昨年度以上にするという点で苦戦している。中間評価 B

・心の教育、健康・体づくりについて

概ね達成している。中間評価 B

・業務改善・教職員の働き方改革について

概ね達成している。中間評価は B だが 10 月末日の段階なので現在は A に近い。

・コミュニティスクールの導入について

活発な活動、委員の皆様のご協力等もあり、中間評価 A

(2) 高校魅力化アンケート報告 大手門学舎副校長

・このアンケートにより、強みと伸びしろ（弱み）を確認し、今後意識して伸ばしていきたいと考える力は何か、そのために必要な次の一歩は何かを考える。

・生徒に関して

【全国平均より上回る項目】

地域の魅力や資源について考える

地域の課題の解決方法について考える

地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる

国際社会の課題解決に貢献したい

【全国平均より下回る項目】

学校外のいろいろな人に話を聞きに行く

地域に、尊敬している・憧れている大人がいる

将来、自分の住んでいる地域で働きたいと思う

この学校を中学生におすすめできる

・大人に関して

【全国平均より下回る項目】

この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる 等

(3) 質疑応答

会長：学校評価中間報告について、数値目標にこだわり過ぎる必要はない。評価を、次年度どこに力をいれるかに結び付けないといけない。そのため学校評価部会でじっくりと検討していただきたい。

高校魅力化アンケートについては、今年度がベースライン（1年目）であるなら、今後マイナスな面ばかりをみるのではなく、学校運営協議会の中でこの結果をきっかけとして熟議をする時間が必要。

委員A：「学校外のいろいろなひとに話を聞きに行く」とは、具体的にどのような活動が考えられるか。

学校A：鹿島さいこうプロジェクトとして1年次に鹿島市役所の方を講師として講義を行い、2年次にフィールドワークをしている。夏休み等を利用してテーマに合わせた形で現地に赴いて話を聞きに行くなどしている。

学校B：商業科では、販売実習や街あそび人生ゲームで外部の人と交流している。

委員B：市役所に勤務している者としては、将来自分の地域で働きたいという項目がマイナスであることは気になる。行政として一緒にできることはないか、仕事面なのか生活環境なのか原因をききたい。

大副：さらに掘り下げるアンケートをとることもできるが。

会長：生徒にざっくばらんに聞いてみてもいいのでは？

委員C：（鹿島高校を）中学生におすすめできないのはなぜか、また先生方もこの結果をみてどう思うか聞いてみたい。

学校C：学科別の結果なども聞いてみたい。

門脇：次年度は学科別に結果がわかるようにできるように改善できると思う。

校長：学年が上がるにつれて結果が落ち込んでいるのではないか。そのためにも普通科改革を行っていく。

2. 旭ヶ岡キャリア塾 stage 1 について

(1) 概要・配信等について キャリア教育部会 委員

- ・令和5年1月16日(月)にシンポジウムを実施予定
- ・イベント的に行うのではなく継続的に行う仕組みを作るため、今後3年間でstage 2、stage 3と発展させていく。
- ・理想としては、生徒一人ずつ外部の(卒業生の)メンターが付くイメージ。
- ・生徒全員を卒業生が見守り、関り続ける仕組み作りができないかと考えている。
- ・3年間でネットワークが繋がるようにしたい。
- ・1部のシンポジウムで行うシンポジストへの質問事項を、本日ワークショップで生徒自身が練り上げていく。

(2) キャリア別トークセッションについて 主幹教諭

- ・受講希望調査 12月9日(金)～12月15日(木)でどの講座をききたいか生徒にアンケートをとる。1講座15名程度。最大20名を予定。人数調整のため第4希望まで調査。なるべく希望に沿うように調整する。最終調整は学年に協力を依頼する。

会長：旭ヶ岡キャリア塾 stage 1 について質問は？

アド：全国的にも色々な地域で卒業生徒と繋がることをテーマとしてコミュニティスクールを行っているところもあるが、鹿島高校が一步先んじて行っているように思う。アドバイザーとして一緒にやっていきたい。

委員C：配信の方法はZoomがいいのか、また配信はどこまで広げるか。

大副：本日は話し合いたい。当初は、近隣の中学校を考えていた。

校長：鹿島藤津地区の中学校に案内し、希望する学校に配信すればいいのではないかと考えている。

委員D：小学生もみたいという声もある。動画を配信するのはどうか。

委員C：中学校がZoomの使用ができるか確認したい。また、講演会用のアカウントはあるか。

会長：配信方法は部会で検討をしていただく。

学校C：情報セキュリティの面から、生徒と卒業生が繋がる手法はライン等ならば、外部の「大人」と繋がるルール作りが必要なのではと考えるが。

校長：それは大事(賛成意見あり)

委員A：1月16日(月)の旭ヶ岡キャリア塾当日は、学校運営協議会委員の出席は可能か？

校長：都合がよろしければ、参加していただきたい。

委員B：内容を見せれば、鹿島市長・鹿島市議等が参加希望する場合もあるのではないかと考えるが。

校長：参加していただきたい。

会長：初めての試みなので、今できている構成を崩さないようにしていただくのはどうか。

【第2部】(14:15～)

3. グループワーク「旭が岡キャリア塾 stage1 シンポジウムに向けて」

- (1) シンポジウムについて概要説明(主幹教諭)
- (2) 本日のワークショップの目的と方法について説明(高校魅力化アドバイザー)
- (3) ワークショップ(ファシリテーター 高校魅力化アドバイザー)
- (4) まとめ

アドバイザー: 今回のワークショップを通して、生徒の皆さんの世界が広がり、未来へのキャリアが開けるきっかけとなることを願っている。

代表生徒: 委員の方々とこのワークショップを通して多くの考え方に触れることができ、とても刺激を受けた。貴重な経験ができた。

副校長: 委員のみなさんのご協力のおかげで、充実したワークショップができた。1月のシンポジウムをはじめ、今後も引き続きご協力を願いたい。

(5) その他 事務連絡

主幹教諭: 閉会后、質問事項のとりまとめや役割分担を行うので生徒は残るように。

閉会(15:05)

<閉会后>

代表生徒12名・主幹教諭

1. シンポジストへの質問事項用紙のとりまとめ
2. 生徒役割分担決め
 - ①司会担当: 2年生2名(赤門学舎1名、大手門学舎1名)
 - ②質問担当: 便宜的に学年で割り振ったが、後日再検討。
 - ③その他: 質問内容の練り上げなど、今後の連絡はClassiで行うことを確認し解散。